

町立図書館開館20周年

南部町立図書館は、平成2年5月、西伯町立図書館としてスタートし、今年で20周年を迎えます。地域のみなさんに支えられ、記念の年を迎えられたことを嬉しく思うとともに、これまでを振り返り、新たな一歩を踏み出す一年にしたいと考えています。

はじまりのとき

シリーズ町立図書館のあゆみ・上

南部町立図書館は、平成2年5月、西伯町立図書館としてスタートしました。図書や記録されたものなど、必要な資料を収集し、整理して保存し、町民のみなさんに利用していただき、教養を高めたリ、調査研究のためや、レクリエーションなどに活用していただくという目的で建設されました。小学校の近くという立地条件もあり、開館当初から子どもたちを中心に多くのみなさんに親しまれてきました。

生（なま）の絵をあわせて展示し、戦争の悲惨さを伝えました。その後、平成12年に結成された、おはなしのボランティアサークル「おはなし・ドン」や、平成15年に結成された、図書館サポートボランティア「葉の会」のメンバーらとともに、子どもたちの読書活動推進にも、積極的に取り組んでいます。その活動が認められ、平成16年には、「おはなし・ドン」が社団法人読書推進運動協議会より、平成17年には南部町立図書館が文部科学大臣より、それぞれ表彰を受けました。

このように、利用者の方々やボランティアの方々を支えられながら、町立図書館は歩んできました。

（3回シリーズ 次号に続く）

キャッチフレーズ決定！

おめでとう20周年！

暮らしによりそう図書館へ

図書館では、20周年を迎える今年、1年間を通じて様々な記念行事を計画しています。また、みなさんの暮らしに役立つ図書館でありたい、との願いから、20周年のキャッチフレーズを決定しました。

さらに広報なんぶの紙面に、今月から1年間、利用者のみなさんのコラムを掲載します。図書館やそこで出会った本に関する思い出を綴っていただきます。どうぞお楽しみに！

リレーコラム『わたしと図書館』

第1回

佐藤さん（南部町）

私の好きな本

あまり小説は読みませんが、今までの図書館で借りた本の中で、私のお気に入りの何冊か紹介したいと思っています。

『容疑者Xの献身』東野圭吾
 これまでの献身だったとは・・・と終盤あたりから涙が止まりませんでした。

『鴨川ホルモー』万城目学
 奇想天外。面白い。こんな話を発想する作者の頭の中を覗いてみたいと思いつつ読みました。

『明日の記憶』荻原浩
 『オリンピックの身代金』奥田英朗
 『あかね空』山本一力
 『蝉しぐれ』藤沢周平・・・

ほとんどの作品が映画化もしくはドラマ化されていますが、私はやはり映像として見るよりも読むほうが好きです。

先日日本屋大賞が発表されました。凄かな『告白』。なかなか重い題材のようです。早速、図書館に予約しました。